

## 挨拶

国立大学法人 岡山大学  
学長 森田 潔  
(事業総括責任者)



岡山大学では、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費採択の「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」(現文部科学省科学技術人材育成費補助金)事業を鋭意推進してまいりました。本事業も最終年度を迎え、これまで進めてきたそれぞれの取組について、目的・目標、成果、波及効果、今後の課題等の総括を行い、冊子としてとりまとめました。これらは、本学構成員のみならず、全国関係者の皆様方にご覧いただき、本事業の取組をご理解いただくとともに、今後のより良い教育・研究環境の整備の一助になれば幸いと存じます。

昨年 11 月 11 日には、「第 3 回中国四国男女共同参画シンポジウム」を開催し、中国・四国地区の 10 国立大学が、男女共同参画に関する特徴ある取組みを継続し、一層発展させていくことを目指して「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」を行いました。この宣言を本学が中心となって発信できたことも本事業の大きな成果の一つであると考えております。

本学は、地域に根差した国際的な美しい大学、国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」の創成をめざしています。その実現のためには、「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の推進による教育・研究環境の一層の整備は、極めて重要、かつ喫緊の課題と認識し、全学を挙げて取組んでまいりました。このような取組を継続し、更に発展させることは、「知」の修得・発展を希求する将来性ある若い研究者が国内外から集う「国際的な研究・教育拠点」を形成するための重要なミッションであると考えています。

これまで男女共同参画室が中心となり進めてきた女性研究者育成・支援事業に関するさまざまな取組は、本学における就労環境の整備・改善に大きく貢献し、教職員のみならず、学生を含め、すべての構成員があまねく享受できるものと確信いたしております。

最後になりましたが、本事業にご支援、ご協力いただいた文部科学省、科学技術振興機構、関係各位に深く感謝するとともに、次年度以降の本事業の継続展開に際しましても、皆様との連携・協力をとおして、共に発展していきたいと切に願っております。

## 女性研究者支援モデル育成事業によるシステム改革と環境整備 「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業をとおして

事業統括責任者 許 南 浩  
岡山大学理事・副学長



我が国では、1999年に男女共同参画基本法が制定され、2005年には第2次男女共同参画基本計画が、2010年には第3次同基本計画が制定されました。第3次基本計画では、科学技術・学術分野における男女共同参画の成果目標として、自然科学系女性研究者の採用目標値として、「25%（早期）、更に30%を目指す」とされ、第4期科学技術基本計画（2011～2016年）においても同様な数値目標となっており、2009年には24.2%という達成率が報告されています。

一方、世界における女性研究者の割合をみると、米国の34.3%、イタリアの33.3%などに比べ日本は13.6%であり、韓国の15.6%よりも低い状況であります（2010年）。

我が国の大学教員に占める女性教員割合は20.15%であり、国立大学では13.3%（いずれも2010年）、また本学では13.0%（2010年5月）と全国平均並みであります。

このような社会情勢に鑑み、文部科学省では、様々な女性研究者研究活動支援策が講じられており、2009年度には、その支援策の一つである「女性研究者支援モデル育成」事業に、本学の「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されました。これを機に教育・研究・就労環境の整備を鋭意進めてまいりました。更に、昨年度には「男女共同参画推進基本計画」を策定し、10年後の自然科学系女性教員割合20%を目指すという目標達成に向け努力しているところであります。

この「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」も事業最終年度となりました。これまでの諸活動をとおし、女性教員の研究支援体制、保育所、ウーマン・テニユア・トラック教員制度等の教育・研究・就労環境の整備はかなり進展したことが窺えます。今後とも、本学全構成員に対し、より良い快適な環境を整備すべく皆様方のご協力・ご支援をお願いする次第であります。

本事業はひとまず終了致しますが、これまで進めてきた各種取組は、来年度以降も継続し、より有用な取組として発展されるべきものと考えています。また、これらの事業は、決して女性教員の優遇策ではなく、本学全構成員が等しく享受できるものであります。

加えて、女性教員の登用及び比率の増加により、多様な視点・発想を取り入れることで、教育・研究活動の活性化が期待できます。このことは、組織としての創造力を一層発揮できる環境整備という観点からも極めて重要であり、本学の将来的発展に大きく貢献できるものと期待しております。

今後とも、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン  
ー活動紹介と新たな事業展開を目指してー」に寄せて

事業実施・推進責任者 沖 陽子  
(環境学研究科・教授)  
岡山大学ダイバーシティ推進本部  
男女共同参画室長



岡山大学は、全国有数の歴史、規模を持つ総合大学であり、地勢的にも中国・四国地域の中心をなしています。現在、「美しい学都」として地域に貢献するとともに、日本の「知」の中心となり、国際的な教育・研究拠点となる大学創成を目指しています。

本学が目指す国際的な大学創成では、本学構成員が国や地域、人種や男女にとらわれず多様性に富むダイバーシティ文化の醸成に努めることが肝要です。これは、本学のダイバーシティ推進本部において鋭意進められています。また、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費（現在の文部科学省科学技術人材育成費補助金）に採択された「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」及びそのコンセプト遂行は、国際的な教育・研究拠点の形成に欠くことのできない、本学の重要な使命ともいえるものです。

本進化プラン事業も本年度で終了致します。これまでは、男女共同参画室が中心となり、女性研究者育成・支援事業のシステム構築を進めてまいりました。同時にシンポジウム、交流サロン事業等とおした意識改革、「おかやまサイエンス・トーク」やオープンキャンパスをとおした後継者育成の取り組みも進めてまいりました。

本学独自の事業「ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員」採用・育成も予想以上に順調に進展し、第Ⅲ期 WTT 教員も内定致しています。

本進化プラン事業をとおして、女性研究者のサポート体制は一層充実し、保育所整備などの支援策も進展し、女性教員の就業環境は着実に改善されています。これらの就労環境整備は、男性教員にとっても、また全ての教職員、学生にとっても快適な教育・研究環境の整備が進んでいることを意味しています。

3 年間の本事業で進めてきたシステム改革、新しいシステム構築では、本学構成員のご協力、ご支援のおかげをもって初期の目的を十分に達成することができました。今後の岡山大学の一層の発展にも大きく貢献するものと期待致しています。

本事業報告・取りまとめ、提言は、「進化プラン」の実施をとおして、並行的に進めてきた各種システム改革、各種支援事業、次世代育成事業等について得られた成果、経験等についてまとめたものです。ご高覧いただき、次年度以降の本学独自の事業によりよく生かされることを期待し、皆様方と共に本学の一層の進展を祈念したいと思います。

今後ともご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。